児童に見られるつまずき

　大事なところを見つけて文章を書きまとめることができない

つまずき解消に向けた指導のポイント

　大事な言葉を見つけられるようにマス目入りワークシートを用いたり、見つけた言葉を用いながらふきだし形式で文を書かせたりすることで、大事な言葉を取り入れ、自分の考えを明確にした文を書くことができるようにする

指導事例集ｐ．４５

１　学年・単元名　　第１学年　「サラダでげんき」おしゃべりレシピをつくろう！

『サラダでげんき』（書くこと）

参考：単元について

２　単元目標

　○物語を読んで登場人物がサラダを作っていく様子に興味を持ち、楽しんで取り組むことができる。【関心・意欲・態度】

○動物たちが出てきた順を捉え、それぞれの動物とりっちゃんの様子を想像して読むことができ

る。【読むこと】

　○それぞれの動物の特徴を捉え、材料やその効果などの大事な言葉を入れて、サラダのレシピを

書くことができる。【書くこと】

　○主語と述語の関係に注意して、「誰が」「どうした」のかを捉えて、文章を読むことができる。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

３　本時の目標

サラダを作るために、アフリカ象がしてくれたことを読み取り、おしゃべりレシピに書きまとめることができる。(第2次第８時)

参考：板書

４　本時の展開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 学習活動 | 指導上の留意点  **太字：つまずきに対する手立て** | 児童の  手立て |
| １　前時の学習を振り返り、本時の学習場面を確認する。  アフリカぞうは、サラダをつくるためにどんなことをしてくれたのだろう。  ２　本時の学習場面を音読する。  ３　アフリカぞうが、りっちゃんのためにどんなことを教えてくれたのか読み取る。  入れるもの  あぶら  しお  す  してくれたこと  スプーンをはなでにぎって  力づよく　くりんくりんと  まぜた。  ワークシート⑤使用  ４　アフリカ象と今まで出てきた動物たちとの共通点と相違点について話し合う。  ○他の動物と比べて同じところ  ・サラダに入れるとよいものを教えに来てくれた。  ・りっちゃんのお母さんに元気になってほしいと思っているところ。  ○他の動物と比べて違うところ  ・教えるだけじゃなく、自分がサラダ作りを手伝ったところ。  ５　おしゃべりレシピを書き、学習のまとめをする。  ３次ワークシート１、２使用  ６　次時の課題を知る。 | ○前時の場面から、サラダを食べる直前であったことを振り返り、本時のめあてを確かめる。  ○はっきり正しく音読するよう声かけをする。  ○一斉読みの後、役割読みをする。その際、誰がどんなことをしたのか確かめやすいように、地の文を教師が読み、会話文を児童に読ませる。  ○「キューン、ゴーゴー、キュー」を工夫して読み、アフリカ象が飛行機でやって来たことに着目させる。  ○「せかせかと」や「まにあってよかった。よかった。」の言葉から、アフリカ象がサラダを食べる前に急いで来ようとしていたことを捉えさせる。  ○「せかせかと」については、児童に動作化させ、言葉の意味も確認させる。  **○アフリカ象がりっちゃんに教えてくれたことについて、本文をもとに大事な言葉をワークシートにまとめさせる。**  ○アフリカ象がサラダに入れたものである「油」と「塩」と「酢」でドレッシングができることを伝える。  ○掲示している足あとを指し示しながら、今までの動物たちとの共通点を確認する。  ○誰がサラダを作ったのかを確認することで、特にアフリカ象と今まで出てきた動物たちとの相違点に気づかせたい。  ○「ぼくのしごと」「力づよく」の言葉に着目させることで、アフリカぞうが自分の得意なことを生かしてサラダ作りを手伝いに来たことを読み取らせる。  **○アフリカ象になったつもりで、りっちゃんに教えたことを自分の言葉で想像豊かに書かせる。**  **○書きまとめさせる前に板書上で、学習のまとめをすることで大事な言葉を落とさないようにさせる。**  ○次時は、サラダを食べるお母さんやりっちゃんの気持ちについて考えることを伝える。 | ・大切な言葉を見つけやすいようマス目に書き込めるプリントや板書を用いる。  ・見つけにくい児童については、教師が本文にサイドラインを引くなど、ヒントを伝える。 |

５　評価

|  |  |
| --- | --- |
| 評価規準 | 評価方法 |
| ○アフリカ象になったつもりで、おしゃべりレシピにサラダ作りについて教えたことをまとめる。 | ・ワークシート  ・発表 |

６　準備物

挿絵、ワークシート、サラダの模型、板書用サイズのワークシート枠